



今月の ブックトーク

8月（葉月）「山の日」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

林野庁のHPによると、2016年から新しく8月11日が「山の日」として国民の祝日になりました。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日とされています。日本の国土は大半を山々が占めていますが、皆さんにも身近な山がありませんか。私は中高時代を福島県の郡山で過ごしましたが、毎朝中学校へ行く通学路からいつも雄大な安達太良山を眺め、心が安らぎました。高村光太郎の詩集『智恵子抄』でも「阿多多羅山の山の上に毎日出てゐる青い空が智恵子のほんとの空

だといふ」（「あどけない話」）や「あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川。」（「樹下の二人」）と詠われています。

安達太良山は日本百名山にも選ばれています。そこで最近出版された『日本百名山 歩いて楽しむ自然学入門』を紹介し



松本 穂高・著
ベレ出版

介します。著者は、百名山の魅力を多様性、変動性、季節性に富んだ自然であると述べています。百名山をQ&Aで解説しているので、特色が明確になり山の成り立ちがよく分かります。例えば、富士山の場合は「高さダントツはなぜ?」という問いです。現在クマ出没が問題となっていますが、日本中の

山々を本で満喫できます。

次は、海外に目を向けてみましょう。おなじみの『アルプスの少女ハイジ』（1880年）。両親を亡くしたスイスの幼い少女ハイジが、アルムの山小屋で一人住む気難しい祖父に預けられます。ハイジの持ち前の純真さは、周りの人々を魅了し、祖



ヨハンナ・シュビリ・著
遠山 明子・訳
光文社
（光文社古典新訳文庫）

父の頑なさも変えていきます。ここで圧巻なのが、美しいアルムの山の情景です。群青色の空、清々しい空気、朝日に輝く牧場、赤、青、金色のお花畑、目の雪原、巨大な岩山がそびえたつアルプスの山の生活をハイジと一緒に楽しみましょう。

今度は海外の険しい山の登頂に挑戦した山野井泰史・妙子夫妻の実話『凍』です。ギャチュンカン峰登頂で「植村直己冒険賞」を受賞した夫婦の壮絶な登山記録。8千メートルのエベレスト級の山にはわずかに及ばない高さですが、超難関の北壁登頂に成功。下山中に雪崩に遭い手足



沢木 耕太郎・著
新潮社（新潮文庫）

の指の大半を凍傷で失いながらも生還しました。想像を絶する二人の強靱な生き方に感銘を受けます。

最後は『山の単語帳』です。女性世界初のエベレスト登頂に成功した登山家田部井淳子による山岳用語集です。空、動植物、季語、道具、登山等に関する用語を美しい写真と共に説明しています。「日本アルプス」は、明治時代、槍ヶ岳に登った英国人冶金（やきん）技師ガウランドが飛騨山脈に命名したそうです。



田部井 淳子・著
栗田 貞多男・写真
世界文化社

「ハイマツ」には、福島県出身の田部井さんは小学6年生で安達太良山に登ったときに初めてハイマツを見たと書かれています。亡くなる直前まで東日本大震災

の被災地である東北の高校生を招待して富士登山を続けた田部井さんから、山の魅力を受けとることができる。

